

## 1 テーマ

### つなぐ、つながる ともに創る「防災・減災教育」

～ 分権型教育行政を活用した防災・減災教育の充実 ～

学校は分権型教育行政のもと、地域や保護者等とつながる機会を通して、未来の防災・減災の担い手である子どもたちとともに「防災・減災教育」を推進します。

## ◇ 3つのつながり

### ① 学習内容を「つなぐ」

学校は計画的・継続的な実践を展開するため、各教科や領域の枠を超え、これらを横断的・総合的に接続し、防災・減災教育カリキュラムを作成する。

### ② 区と学校を「つなぐ」

学校は各区の教育行政連絡会等を活用して、区と情報を共有しながら、地域の実態に応じた「防災・減災教育」を進める。

### ③ 世代と地域を「つなぐ」

学校は防災・減災教育を進める中で、未来の防災・減災の担い手である子どもたちや保護者、地域の様々な世代の人々等との新たなつながりを構築する。

## 2 現状

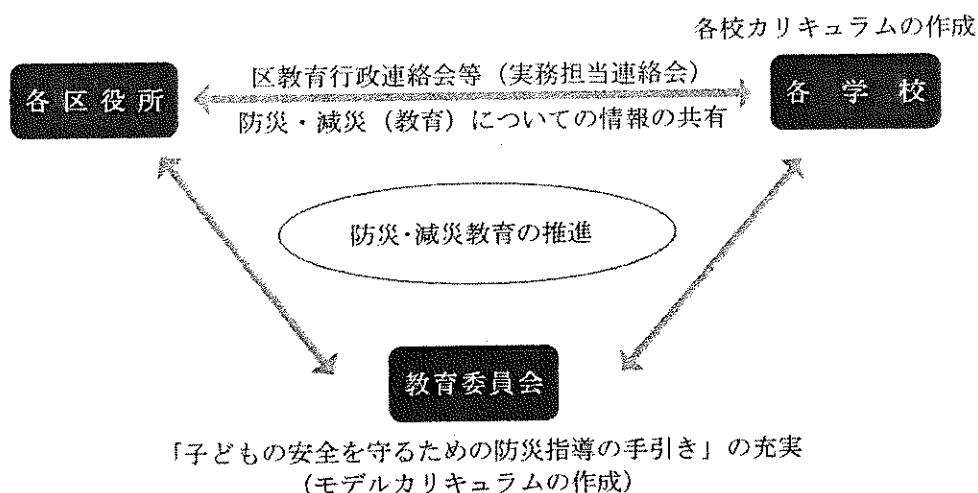
- (1) 「子どもの安全を守るための防災指導の手引き」の改訂(平成27年3月)
- (2) 大阪市教育振興基本計画の平成27年度までの目標「防災に関する授業を年間2時間以上実施する学校の割合を100%にします。」を達成
- (3) 小中学校の80%以上が土曜授業で防災教育を実施
- (4) 平成27年度局運営方針(防災教育の推進)「休日や土曜日などに行う授業などを活用し、保護者や地域住民、関係機関団体等が参加する防災訓練等の活動を実施した小・中学校の割合を100%とする」

- ・ 区地域防災計画の作成(平成24年度以降)
- ・ 大阪市地域防災計画の修正(平成26月10月)
- ・ 大阪市防災・減災条例の施行(平成27年2月)
- ・ 市民防災マニュアルの全戸配付(平成27年3月)

## 3 分権型教育行政の活用

- (1) 教育委員会事務局は、各学校の防災・減災教育の基盤となる「子どもの安全を守るための防災指導の手引き」を充実し、モデルカリキュラムを作成、提供する。
- (2) 学校は、区教育行政連絡会等を活用し、防災についての情報を区と共有する。
- (3) 学校は、モデルカリキュラムを参考に、自校の防災・減災教育カリキュラムを作成する。

## 4 取組のイメージ



## 減災（防災）教育の可能性について

### ■日本の現状

- ・継続する災害のリスク（いつでも地球上どこでも。津波だけでなく様々なタイプ。巨大複合化）
- ・継続する大震災（東日本大震災も阪神大震災も、終息していない）
- 減災教育を実施する責任の発生

### ■教育の可能性

- ・「減災社会」担い手の育成 … 「主役として」  
子どもは、減災準備、発災時及び発災後、重要かつ有効な力である（釜石など各地事例）
- ・「次世代」人材の育成 … 「発災時」だけではない  
子どもは、やがて大人となり社会を創り、守る
- 減災教育は、人間・市民・国民として期待され、世界で尊敬される人材を創る  
（自分だけが生き残るサバイバル術ではない）
- ・先生を守る … 子どもと自分を守る（石巻の犠牲、訴訟も）

### ■「区(担当教育次長)+教委・学校」の意味 … 分権型教育行政に最も適合する分野

- ・ともに創る「教育」。都市型災害に対する初の組織的チャレンジ。発災時、大きな効果
- ・双方に「限界」… 災害は人を選ばない。ともに立ち向かってこそ、真の相乗的減災効果
  - a. 学校＝社会性の限定（校内での出来事）、知識重点、教育課程・カリキュラム外の懸念
  - b. 地域＝地域防災の限界（関心・利害を持つ者だけ、高齢化）、子どもの能力を活かせず
- ・「地域」「家庭」と「学校」をつなぐ（「地域」と「地域」、「学校」と「学校」も）
- ・世代をつなぐ（高齢者・要介護者と子どもたちも）
- 社会の能動的構成要素に

### ■3つの柱 … カリキュラムの骨

- ①「減災」「災害」は、止められない。だが、人間の英知により被害の低減は可能
- ②「レジリエンス (resilience)」 どんな苦境にあっても立ち上がる力
- ③「共感」 人と人がつながろうとする意思
- そのうえで、科学的知見（自然、社会、人文）/ 判断 / 行動など

### ■特徴的事項

- ・共通の課題に加え、学校と地域の個別性（各区と学校で調整が不可欠）
- ・社会的弱者への配慮（特支学級・学校、高齢者、障がい者、妊産婦）
- ・教育面での特徴
  - a. 複数の教科に分散（放射線医学も。系統の希薄化→各教科などの横線をつなぐ必要）
  - b. 一つとは限らない「正解」
  - c. 知識に加え、発見や行動が必要
  - d. 倫理的な内容と思考  
（流されゆく母の「最期の授業」/ 法王に「なぜこんな苦難を？と尋ねた少女 / 「良いことも悪いことも全て受け入れ、生きよう」と言った被災者）
  - e. 評価の困難性
- しかしこれらは、欠陥ではない。新しいタイプの人間を育成する可能性を持つ

以上

